

# 「子供の将来を見据えた学校・家庭・地域の一体化教育の推進」

## 長崎県南島原市

活動名

有家小学校学校支援会議

関係する学校

南島原市立有家小学校

活動区分		※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	2人	78人	20年度	無
	放課後子供教室	1人	111人	年間開催日数	補助の有無
	実施場所	有家小体育館・運動場、校区内公民館・運動公園、地域住民宅		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

南島原市立有家小学校は、南島原市が持つ豊かな自然環境や豊かな人間性に囲まれており、その地域の特性を生かした学校づくりや子供たちの放課後(休日)の居場所づくりを進めている。

平成20年度に発足した有家小学校学校支援会議を母体とし、子供の将来を見据えた学校・家庭・地域の一体化教育を推進するため、自治会、PTA、親父の会、ありえっ子を守ろう隊、中学校、老人会、防犯協会等各種団体とのネットワーク化を図り、地域人材を本取組に生かして様々な「人」とのふれあい活動や、明るい地域づくりをめざした社会参加型の互助・共助活動を積極的に行っている。

併せて「ほたるの住む有家川にしよう」をテーマに、地域ぐるみの自然環境整備に取り組み、郷土愛の醸成にも努めている。

また、南島原市の放課後子供教室「寺子屋21」事業において、有家小学校は市内25小学校の中で唯一平成13年度より単独実施し、児童の8割超が参加した。現在も児童の加入率は5割を超えており、教室は学校施設や公民館だけにとどまらず、校区内住民の居宅も活用するなど、地域の教育力を生かした特筆すべき取組となっている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

子供の将来を見据えた学校・家庭・地域の一体化教育を推進するため、地域の方が中心となった一週間の通学合宿や、「ほたるの住む有家川にしよう」をテーマにした地域ぐるみの自然環境整備活動が立ち上がり、たくさんのボランティアの方の協力で、活動が軌道にのり活性化した。子供たちも意欲的に参加し、主体性や人間関係力が育まれている。また、地域住民の一員として防犯運動や夏休み期間のラジオ体操を地域住民に呼びかけるなど、地域貢献や地域コミュニティ再生にも積極的に取り組んでいる。これらの取組を通して地域の方の横のつながりが深まった。

### 【実施に当たっての工夫】

地域の風土である「ひと」「もの」「こと」を子供たちの人間形成の素材として活用するため、地域のコーディネーターを中心に運営が進められている。学校支援会議には、自治会長代表や警察からも参加し、地域の関係機関との連携・協働による安全・安心で住みやすい、支えあう地域づくりを視点に、子供たちを核にした活動を心がけている。

例えば、学校支援会議で企画・運営する通学合宿においては、4～6年生を対象に6泊7日で開催し、集団生活体験により生きる力(責任感・協調性・思いやり・規範意識・忍耐力等)を育むほか、保護者が子離れの体験をすることで子育てを見つめ直す機会として、家庭教育力向上にも視点を置き、さらに地域ぐるみで行う教育のネットワーク化を図り、地域の子供は地域で育むといった気運の醸成に努めている。その結果、延べ170名を超える保護者や地域の方々の参画を得ている。



防犯や環境浄化を呼びかける子供たち

## 事業を実施して

子供たちは、多様な活動を通して生きる力を育むことができ、地域の方を知ること、普段からの声かけやあいさつができるようになり、お互いに話やすくなった。また、地域の方は、子供と関わることで、生き甲斐を感じ元気になり、地域全体が活性化されていると思う。さらに、保護者間に「これだけ地域の方々にお世話になっているのだから」という感謝の気持ちや学校への信頼が強まり、従来、一部の保護者に見られた学校へのクレーム等がほとんどなくなり、理解者・協力者に転じていることも成果である。



ホタル(幼虫)の飼育

## その他

学期における多様な取組は生きる力の源となるものである。社会貢献を通じて子供たちは地域住民の一員として、また社会の中の有為な人間としての自覚を持ち、自尊感情を育むものと確信している。今後も学校支援会議が核となって子供を育むネットワークの拡大と取組の充実・発展を図り、社会全体で子供たちの夢や憧れを育む風土の醸成等に努めたい。